う意味もあるが、食物の方でみても人間に害を与えることばかりでなく、逆に役立つ例もある。世の中のことでも、悪い面には注意しなくてはいけないが、良い面にも注目して積極的に活用して行く方がプラスであろう。

（大妻女子大学）

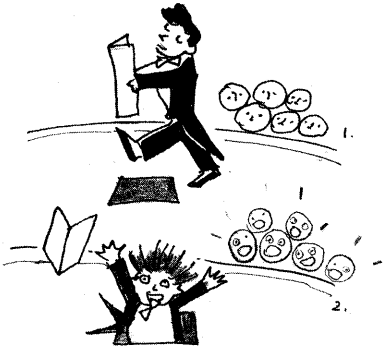
くされ縁

平田　道子

くされ縁について書いてみたいと思う。

《くされ縁》というと、まず夫婦の仲が思い浮かぶ。言葉の定義通り「離れようとしても離れられない、好ましくない関係」を言うのかというと、実際は、好ましくない関係の中に、育っているものが含まれている。

先日、コーヒーの好きな85歳の老人と喫茶店で話し合うことがあった。



「実は、息子夫婦がうまくいってなくて、離婚するかもしれないのです」

「そうか。今の若い者は、簡単に付いたり離れたりするところがあるな」

「……」

「しかし、わたしも、60年近く一緒に生活してきたが……。ばあさんから逃げ出したいと思ったことは何度もある。ばあさんにしてみても、世の中で一番憎んでいるのは、このわたしなんだな。そして一番居てもらいたいのも、このわたしなんだ」

私は、老人の呟えているのに感心してしまった。手は震え、足元は覚束無くて杖に頼っている、一見半ぼけ風のこの老人から、見かけで人を判断してはいけないよ、という教訓を得たことの他に、愛と忍の同時進行の人生をつきつけられた思いであり、衝撃とも言えるものを感じた。

「彼奴とオレとは、くされ縁」と言う時も、考えてみると好ましくない関係ではなくて「いろいろと腹が立つ時もあっけどョー。何故か、お前とは切れねえんだョナー」が基本になっているようだ。

私は、今、私立幼稚園に勤務している。園生活の人間関係の中で、こういう場面を「くされ縁」というのかなあと思う時が多くある。

例えば、

年長児のM君。なかなか活発で、何時も機嫌よく遊んでいるのだが、何故か、にこにこしながら、自分の通る所に他児がいると、ぼかぼかっと叩いたり、キックしていくのだ。そのクラスの状況察知の遅い子は毎日やられることになる。

I君は可愛い女の子ばかりをねらう。私から見れば求愛ポーズだが、女の子は身の危険を感

じ、母親は「うちの娘がこわがっています」と園に訴えてくる。

何となく弱々しくて、すぐ泣いたり、先生に訴えたりする男児も、年長ともなると、からかいの的にされる。

マイペースで共感性の乏しい子も、変な子、みんなのことを考えない子として批難されるチャンスが多くなる。

逆に、共感性の乏しい子に、何故か魅力を感じて「ボク、G君と遊びたいのに」と、ぶつぶつ言いながら付いて行っては、毎度ふられる悲哀を味わい続けているS君もいる。

女の子達の世界も、口が立つだけに、大人の社会のように厳しいものがある。特に三人という人間関係にこだわる子が結構多い。二対一の一の方になると、決まって翌朝は登園をしぶる。登園時、うまく二になって手がつなげると、実に嬉しそうに、にこにこ顔で部屋に走って行く。

一方、三歳児でも逞しい女の子がいる。

つい先日の昼食後のことだった。動物好きの女の子仲よし三人組が「にわとり抱くんだあ」と走って来た。三番目に辿りついた女の子が先着の二人から言われた。

「駄目だもーん」

三番目の子が毅然として即刻言い返しをし、園庭に出て行った。

「いいもん。わたし。外で遊んでやるから」

その迫力に押されて、先着お二人様は顔を見合わせ、にわとりも抱かずにその場を去った。

卒園まで、ずっと「お母さんと一緒でなければいや」と片時も母親から離れられない子が何人かいる年があった。いずれも小学校入学と同時に母から自立し、喜々として通学するようになった。これも、子どもの側に立っての母子関係が充分に熟し、見事に腐れ果てた結果の姿で

はないだろうか。

他の園を見学させて頂いた時だった。昼食場面で、軽い遅れを持っている男児が、椅子を引きずりながら、何処に座るべきか思いを巡らし、テーブルの間を歩き回っている。

他の子が騒ぎだした。

「早く座れよお」

「遊ぶ時間（昼食後）が無くなるだろ」

「席、空いてるじゃねえかよ」

「此処だって空いてるんだぞ」

担任は黙って見守っている。クラス全員から困ったヤツという感じの注目を浴びている。

無表情に空いている一つの椅子に座った。他児は、やれやれとして、当番が「頂きます」のご挨拶を始めた。

他の場面でも、きっと愚図でのろのこの子は、もっと暖かい視線が欲しいのではないかという思いが頭をかすめる。しかし、保育は毎日のつながり、担任の見通しや考えがあるから、軽々しくこの光景は云々できない。

一つの園に縁あって、しばらくの時間と空間を共にする。子ども、親、保育者の人間関係の腐り方が固定化されないよう、担任を中心に、その回りの大人達も心をつかっていくのが幼稚園だ。

腐ることには、必ず、種になるとか肥料となるものがあって、次の生命・エネルギーを生み出していく。

くされ縁は、親子兄弟の関係から始まり、横のくされ縁の始まりが、幼稚園と言えようか。

《くされ縁》を大事にしていきたい。

（大和郷幼稚園）